

持続可能な観光における基礎調査

首里・龍潭景観形成地域における地域住民の観光に対する態度の研究

A Foundational Study for Sustainable Tourism:

Residents' attitude toward tourism in Shuri and Ryutan Landscape Formation Area (LFA)

宮国薫子 Kaoruko Miyakuni

首里城近辺には、1990 年後半に景観形成地域が指定され、首里城を囲む美しい街並みが形成されてきている。沖縄県には、2019 年に過去最高の観光客数を記録したが、2019 年 10 月に首里城が焼失し、2020 年 1 月には、新型コロナウイルスの影響を受け沖縄県の観光は低迷したままである。今までの観光を見直し持続可能な観光を推進するために、地域住民の観光に対する態度についてアンケート調査を行った。調査では、333 名中 287 名から回答を得た。その結果、観光の経済、社会・文化、環境における正の影響を地域住民は、感じていること、観光の経済、社会・文化、環境の負の影響については、交通渋滞や交通事故への懸念が強いことがわかった。

Key Words : 持続可能な観光 (Sustainable Tourism)、観光目的地計画 (Destination Planning) 首里城 (Shuri Castle)、観光に対する態度 (Residents' Attitude toward Tourism)

1. 研究の目的と背景

首里城近辺には、1990 年後半に首里景観形成地域や龍潭景観形成地域が指定され、首里城を囲む美しい街並みが形成されてきている。沖縄県においては、2019 年に、過去最高の観光客数 10,004,300 人¹⁾を記録したが、2019 年 10 月に首里城が焼失し、観光や地域住民は心理的に大きな打撃を受けた。その後、2020 年 1 月には、新型コロナウイルスが猛威を振るい始め、沖縄県の観光は低迷したままである。来るべく、観光の復活を願い、今までの観光を見直し、持続可能な観光への準備を行う時に来ている。

持続可能な観光への基礎的な調査として、住民の観光に対する態度の研究が世界各地で 1960 年代後半より行われてきている。1960 年代、70 年代には、観光が地域の経済、社会や文化、環境に及ぼす様々な影響が調査され、1980 年代には、観光地の共同体に焦点を当てた研究が²⁾、1990 年代には、地域住民の観光に対する態度を説明するモデルの構築と実証研究が、多くの観光研究者の間で試みられている³⁾。

世界中の観光地で観光の経済的な正の影響や観光の自然や社会的な負の影響が論じられ、近年では、それらが体系的にまとめられている。2010 年代になり、人気のある観光地に多くの観光客が殺到し、地域における観光の負の影響が明るみになり、オーバーツーリズムという言葉が一般化した。

沖縄県の首里城近辺も、観光客が増加するとともに、

観光客が SNS 情報や位置情報システムを駆使して、地域の隅々まで進出したり、レンタカーでスージーグワと呼ばれる狭い小道や住宅街の片道一車線の道路を走り抜けたりする被害が起きている。首里地域では、伝統や緑の多い静かな環境を大切に思っている住民が多いと言われているが、観光そのものに関して、かつ、観光客の増加に対して、どのような感じを受けているだろうか。本稿の問いは、首里城近辺の地域住民が観光に対してどのような経済的、社会文化的、環境における影響を感じているかということである。ここでは、本調査の事前調査における中間報告として、地域住民が観光に対しての影響をどう感じているかについて、まとめた。

2. 研究方法

本稿の研究方法としては、首里近辺のアンケート調査を行った。調査期間は、2021 年 3 月の 1 か月間と、6 月から 8 月までの 4 か月間である。調査の範囲は、首里城や龍潭池、中城御殿跡や、それらを含む龍潭景観形成地域や首里景観形成地域を囲む東西 300 メートル以内の地域である。地域の選定にあたっては、那覇市都市計画課に協力依頼をし、入手できた住宅地図を利用し、アンケートを配布する範囲を設定した。

アンケート調査の方法としては、調査員 (3 名) が、2 軒に 1 軒を訪ね、一週目に調査票を配布し、2 週目に回収する方法で行われた。333 件の配布中、287 件回収

し、回収率は、86%という高い回収率となった。

アンケートの質問は、選択式が70問、記述式が5問あり、筆者が2012年に行った西表島における1000世帯を対象としたアンケート調査の質問をもとに、首里地域に合わせて、共同体の意識に着目した質問を2件、追加した。アンケート調査すべてに回答したインセンティブとして被験者に抽選で20名に大学のロゴ入りペンを郵送することにした。

3. 調査結果

(1) 観光が地域へもたらす正の影響

図表1は、観光が経済にもたらすプラスの影響を示している。地域住民は、観光がもたらす正の影響である「観光は雇用機会を増やす」に対しては90%以上、「投資の機会を増やす」、「地域の住民に仕事を与え経済を潤す」、「観光収入を増やす」等に関して、「中小企業に利益をもたらす」の全てにおいて、「大変そう思う・そう思う」が50%以上を超えており、観光の経済におけるプラスの影響を強く感じていることがわかった。

図表2は、観光が社会や文化にもたらす正の影響を示している。「観光のおかげで地域住民の公園や遊び場が増える」は20%強、「住民と観光客との交流を促す」に対しては、42%が「大変そう思う・そう思う」と答えている。一方、「観光は地域文化を守る一助となる」、「観光は道路や歴史的な建物の修復に寄与する」「道路や公共の建物の質が改善される」「住民の文化的な活動を促す」などの4つの質問において、60%以上をこえており、おおむね観光が社会や文化にもたらす正の影響を感じているようだ。

図表3は、観光が社会や環境にもたらす正の影響を示している。4問のうち、「観光は首里の景観をよくする」や「住民に自然資源の保護・保全を促す」という質問に対しては、50%以上が「大変そう思う・そう思う」と答えている。しかし、「観光は、より多くの公園を造成することを促す」や「観光は、住民に土地の購入を促す」に対しては、30%以下が、賛成している。

(2) 観光が地域へもたらす負の影響

図表4は、観光が経済にもたらす負の影響を示している。「観光は住宅の価値を上げる」、「観光は物価を上げる」「サービスや商品の価格を上げる」、「観光は一部の人へのみ利益を上げる」に対して「大変そう思う・そう思う」と答えた人が50%以上、見られた。しかし、

「観光事業によって得られた利益は、島外の人や会社の利益にしかない」という意見に対しては、「大変そう思う・そう思う」が30%未満であった。このことから、観光の負の利益についても、ある程度、認識されていることがわかるが、観光から得られる利益については、広く地域に行き渡ると感じているということを表しているだろう。

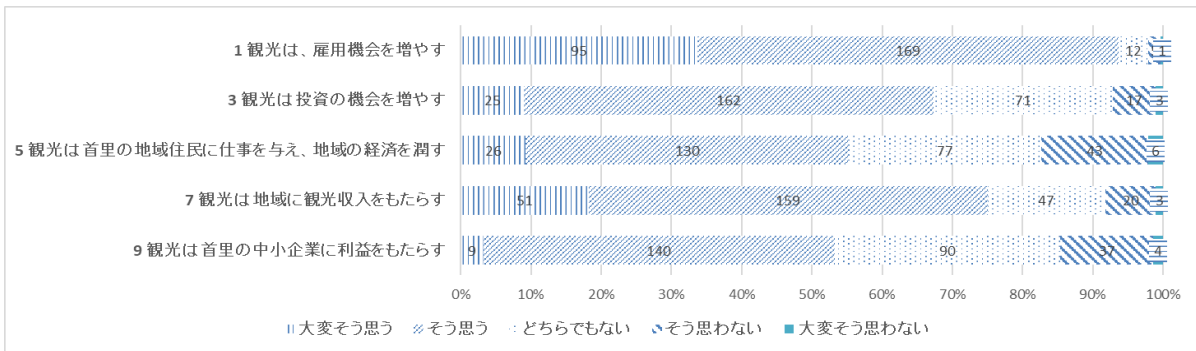
図表5は、観光が社会や文化にもたらす負の影響を表している。「観光は交通渋滞を招く」が80%弱、「観光によって交通事故が増える」が50%近く、「大変そう思う・そう思う」と答えており、交通面での懸念が著しく見られた。それに対して「観光によって犯罪が見られる」、「住民の生活に良くない影響をもたらす」、「文化に悪影響を与える」に関しては30%以下が「観光によって公共の場や遊びの場が混雑する」に関しては35%強が「大変そう思う・そう思う」と答えている。この調査では、観光の負の影響について記述式でも聞いているが、地域の交通に関する苦情が多々見られた。

図表6は、観光が環境にもたらす負の影響を表している。「観光は首里に騒音をもたらす」が40%以上、「観光は首里に環境破壊（汚水・ごみ）をもたらす」は30%以上が「大変そう思う・そう思う」と答えているが、「そう思わない・大変そう思わない」と答えている人々も30%以上いる。一方、「観光は、首里の自然や集落に悪い影響をもたらす」、「観光は首里の生態系に破壊をもたらす」には20%以下が、「大変そう思う・そう思う」と答えており、むしろ、40%以上が「そう思わない・大変そう思わない」と答えている。地域住民は、観光が周囲の自然環境に悪影響は与えていないと、感じていることがうかがえる。

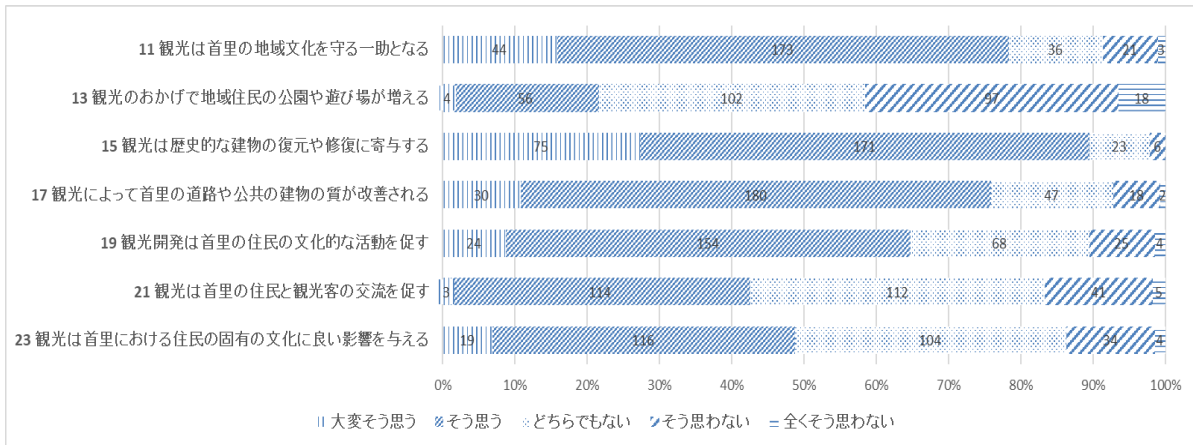
(3) 住民の地域への帰属意識

地域住民の地域への帰属意識（Community Attachment）を調べ、図7に示している。「あなたにとって、首里を故郷だと感じる」、「住んでいる場所として満足している」、「首里で起こっている出来事に関心がある」、「首里の土地柄や雰囲気が気に入っている」という設問に対して「大変そう思う・そう思う」が80%を上回り、「首里を離れないといけないとなると悲しい」についても「大変そう思う・そう思う」が80%弱であった。このことから、地域住民の地域への帰属意識や思い入れは、かなり強いということが言えるだろう。

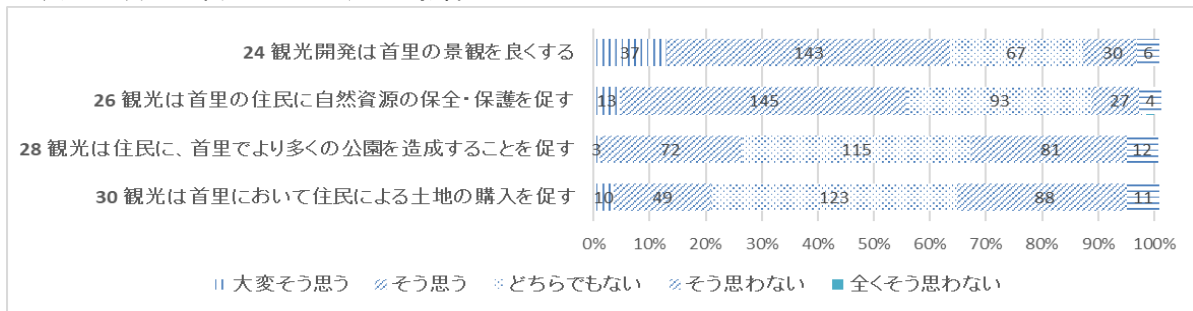
図表1 観光が経済にもたらす正の影響 (N=284)



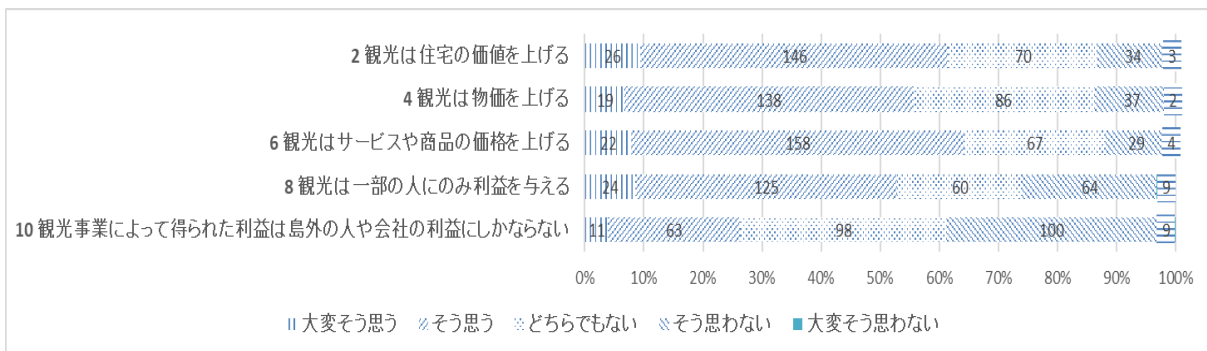
図表2 観光が社会や文化にもたらす正の影響



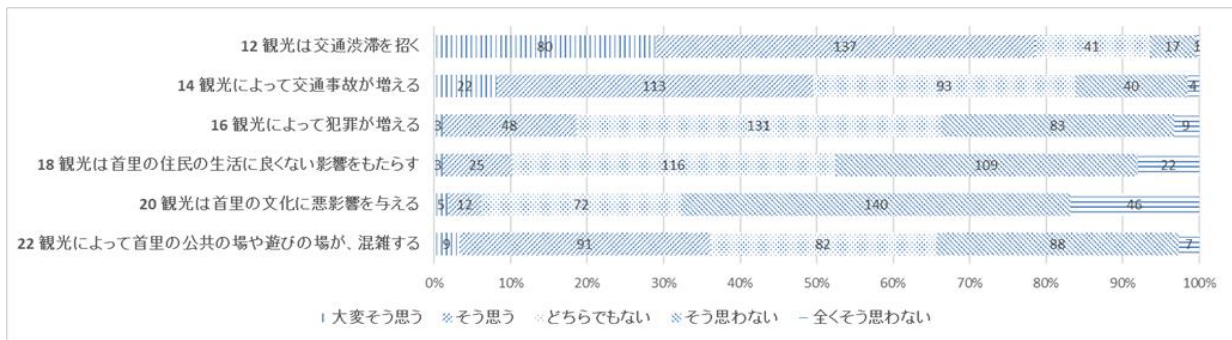
図表3 観光が環境にもたらす正の影響



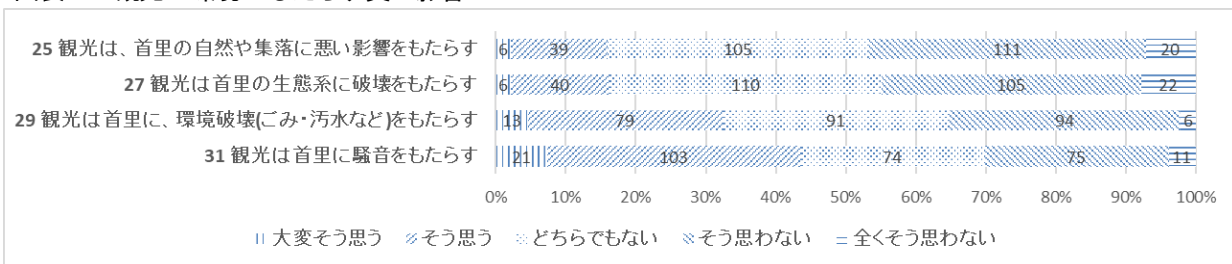
図表4 観光が経済にもたらす負の影響



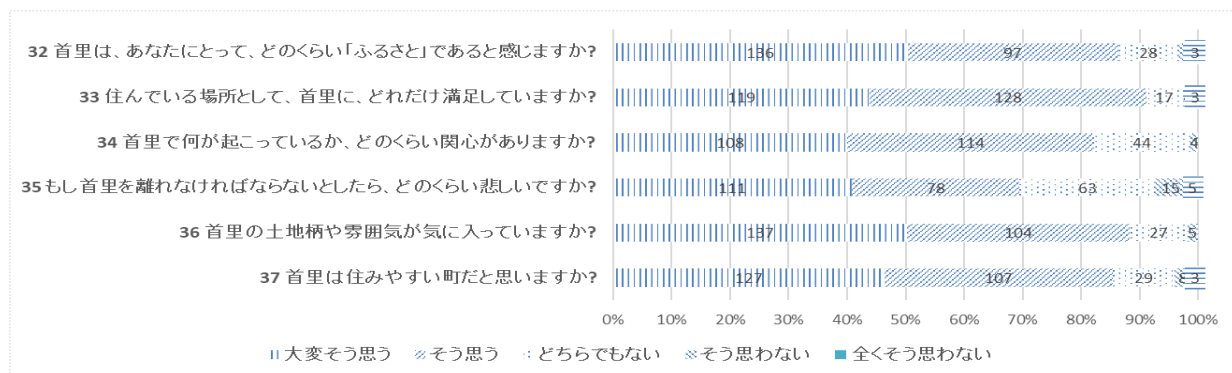
図表5 観光が社会や文化にもたらす負の影響



図表6 観光が環境にもたらす負の影響



図表7 地域住民の地域への帰属意識



4. 結論

本稿では、首里における住民観光に対する態度を経済、社会・文化、環境についての正と負の影響、コミュニティへの帰属意識についてアンケート調査した。その結果、観光の経済、社会・文化、環境における正の影響を地域住民は、概ね感じていること、観光の経済、社会・文化、環境の負の影響については、特に、交通渋滞や交通事故への懸念が強いことがわかった。

ハワイのDMO (HTA) では、住民の観光に対する態度の調査が定期的に行われ、結果がホームページで公表されている。2012年に、この調査を筆者が西表島でも行い、沖縄県でも、2018年に、このような調査が行われたが、まだ特定の観光目的地で定期的に行っていない。一口に、沖縄の観光といっても沖縄県には様々な観光地が確立してきており、場所によって特徴や課題が異なる。このような調査を観光目的地ごとに定期的に行うことによって、その地の現状と課題が明確にな

り、持続可能な観光を推進することができるだろう。

謝辞

本研究は、科学研究費 (若手研究) 19K20570「持続可能な開発指標 (SDGs) と地域住民を含んだ観光まちづくり: 首里景観形成地域 (2019-2021)」の助成を受けました。地図を提供してくださった那覇市都市計画課の方々、アンケート調査を行った山口氏、伊波氏、赤嶺氏に感謝の意を表します。

【参考文献】

- 1) 沖縄観光に関する統計・調査資料
dnrm2okinawakannkounkanssurutoukeichousashiryou.pdf 2021年9月27日閲覧
- 2) Rothman, R. A. (1978). Residents and transients: Community reaction to seasonal visitors. *Journal of Travel Research*, 16(3), 8-13.
- 3) McGehee, N. G., & Andereck, K. L. (2004). Factors predicting local residents' support of tourism. *Journal of Travel Research*, 43 (November), 131-140.